

長距離輸送を中継し走行距離減らす 新型車導入などで働き方改革

ネストロジと中国陸運

広島の物流企業が長距離輸送の中継拠点で別のトラックに荷物を積み替えることで一人のドライバーの長時間連続走行を抑え、労働環境の改善を進めている。積み替えには重い荷物の持ち運びがネックだったが、各社は荷台ごと移せる新型車両の導入などで工夫を凝らす。

ネストロジステ

イクス（東区馬木、篠原則夫社長）は2019年末に車体と荷台が分離できるスワップボディイコントラックを導入し、トラックの乗り換えや荷物積み替えの負担を軽減した。全国の拠点のうち、まずは大阪—広島（中継拠点）—福岡で採用。積み下ろし不要で荷台のコンテナごと移し替えそのため、所要時間が従来の数時間から数分に大幅短縮。長距離路線の日帰りが可能になったほか、ドライバーが運転業務に専念でき、輸送品質の向上につながる。女性も従事しやすい。現在、同車両を6台まで増やしており、年末に2台を追加予定。脇見や危険な車間距離などを警告するAI搭載型ドライブレコーダーの導入などと合わせ、働き方改革を進める。

18～19年の運送業界の全国有効求人倍率が3倍前後で推移し、他産業よりも人手不足が顕著となつている。ドライバーは20年間で2割（21万人）以上減った。労働環境の改善と同時に業務効率化は待ったなし。併せて、輸送の最適化は新たな受注を開拓するチャンスにもなる。

中国陸運（廿日市市、西尾義輝社長）

は長距離輸送の中継拠点で別のトラックに荷物を積み替える「スイッチ輸送」の受注が拡大。18年の開始から同分野の売り上げが5倍となった。荷主の課題に合わせた提案が奏功。例えば荷主の各工場から中継拠点にスイッチ輸送で商品を集約し、積載効率の高い共同配達を使う。荷物の多寡で融通しづらいチャーター（貸切）便による長距離輸送に比べ、荷主の物流コスト削減につなげられる。また中継拠点があれば、流通や外食チェーンの店舗拡大にも対応しやすい。関西—岡山—広島—九州のそれぞれの間で実施しており、10月をめどに山口市佐山の敷地約7300平方メートルに倉庫面積約1700平方メートルの新たな中継拠点を開設する。荷物の積み替え時には荷台のパワーゲート（電動リフト）などを活用し、作業負担を軽減している。